

●●●2020年4月～6月期 栃木県中小企業景況調査(164回)●●●

【栃木県D I 指数天気図】 point!

今期(県内全体)の業況

D I 値
-63.4
※全国 -64.1



県内全体の業況は、前期比-39.0ポイントと大幅に悪化し、D I 値は-63.4となった。全国の業況も県内とほぼ同値の-64.1となった。業種別にみても、全業種で大幅な悪化となっており、また経営上の問題点では全業種とも「需要の停滞」が1位に挙がっていることから、新型コロナウイルス感染症の経済・企業への影響が深刻化していると言える。来期の県内全体の業況は17.3ポイントの改善となる見込み。製造業・小売業・サービス業では改善傾向にあるものの、建設業は引き続き大幅な悪化が見込まれる。

～天気図の指標～

現状	良い	やや良い	やや悪い	悪い	とても悪い
天気図					
D I 値	15.1～	15～0.1	0～-15	-15.1～-40	-40.1～

業種	項目	今期(全体)	売上額	仕入単価※	採算	資金繰り	来期予想(全体)
製造業	D I 値	-76.1	-69.9	6.9	-73.3	-53.3	-42.1
	業況	売上額、採算、資金繰りが大幅に悪化、来期も停滞続く (D I 値 前期比-50.9ポイント)					
建設業	D I 値	-29.2	-50.0	30.0	-40.0	-40.0	-52.3
	業況	売上額、採算、資金繰りが大幅悪化、来期も悪化の見込み (D I 値 前期比-16.7ポイント)					
小売業	D I 値	-61.4	-60.0	12.5	-52.5	-50.0	-39.5
	業況	売上額、採算、資金繰りが大幅悪化 (D I 値 前期比-22.6ポイント)					
サービス業	D I 値	-65.3	-76.7	3.4	-66.7	-54.9	-51.3
	業況	売上額、採算、資金繰りが大幅悪化も、来期は改善の見込み (D I 値 前期比-46.6ポイント)					

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります

【経営上の問題点】

製造業

- 第1位： 需要の停滞 (45.8%)
- 第2位： 製品ニーズの変化への対応 (9.7%)
- 第3位： 製品 (加工) 単価の低下・上昇難 (6.9%)

建設業

- 第1位： 民間需要の停滞(38.7%)
- 第2位： 従業員の確保難(19.4%)
- 第3位： 材料費・人件費以外の経費の増加 (6.5%)

小売業

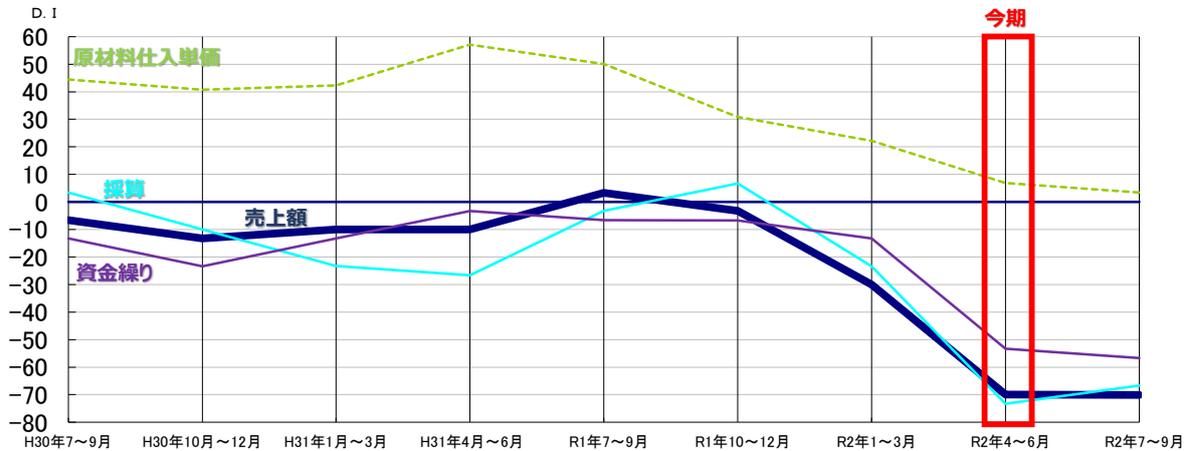
- 第1位： 需要の停滞 (33.9%)
- 第2位： 消費者ニーズの変化への対応(18.4%)
- 第3位： 大・中型店の進出による競争の激化 (7.1%)

サービス業

- 第1位： 需要の停滞 (26.4%)
- 第2位： 利用者ニーズの変化への対応 (18.4%)
- 第3位： 材料等仕入単価の上昇 (11.5%)

製造業

「売上額、採算、資金繰りが大幅に悪化、来期も停滞続く」

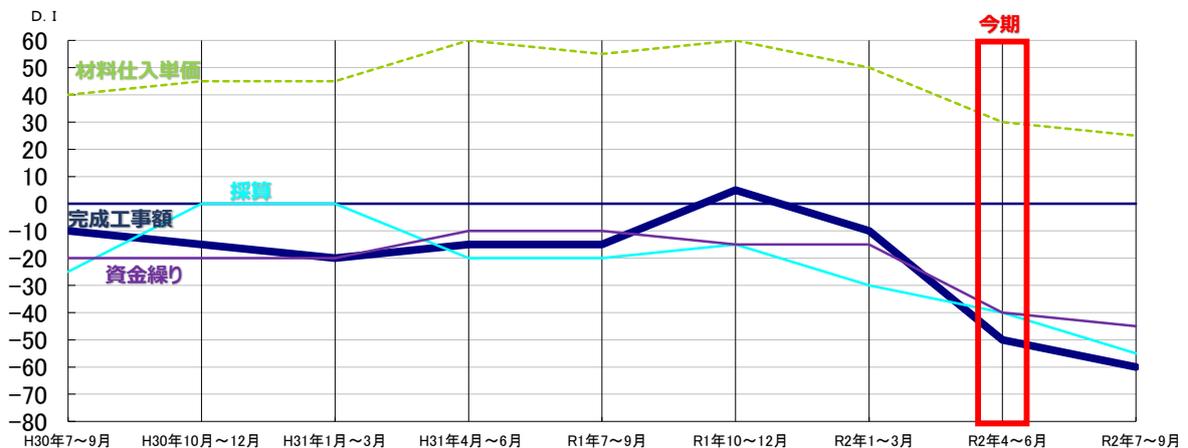


新型コロナウイルス感染症の影響により「売上額」(-30.0→-69.9)、「採算」(-23.4→-73.3)、「資金繰り」(-13.3→-53.3)のいずれも大幅な悪化となった。来期は「採算」が6.6ポイント(-73.3→-66.7)改善されるものの、今期に引き続き、悪化した状態が続く見込みである。

また、「原材料仕入単価」(22.2→6.9)は4期連続で改善を示し、来期においてもさらなる改善(6.9→3.4)が見込まれる。

建設業

「売上額(完成工事額)、採算、資金繰りが大幅悪化、来期も悪化の見込み」

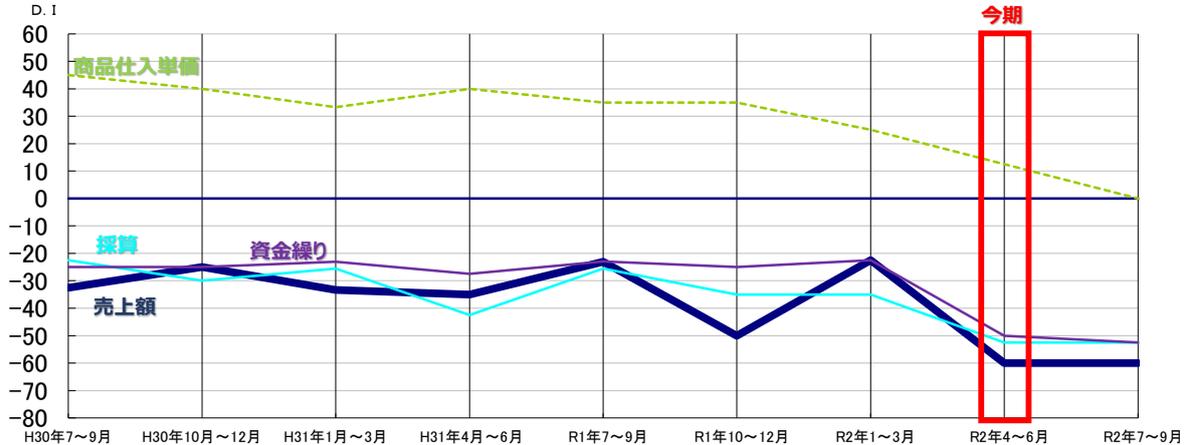


「売上額(完成工事額)」が-40.0ポイント(-10.0→-50.0)、「採算」が-10.0ポイント(-30.0→-40.0)、「資金繰り」が-25.0ポイント(-15.0→-40.0)とそれぞれ大幅な悪化となった。他業種については来期、横ばいまたは若干の改善傾向となっているものの、建設業については来期もさらなる悪化となる見込みで、厳しい状況が続く。

「材料仕入単価」は、20ポイント(50.0→30.0)改善しており、来期も引き続き改善(30.0→25.0)が見込まれる。

小売業

「売上額、採算、資金繰りが大幅悪化」



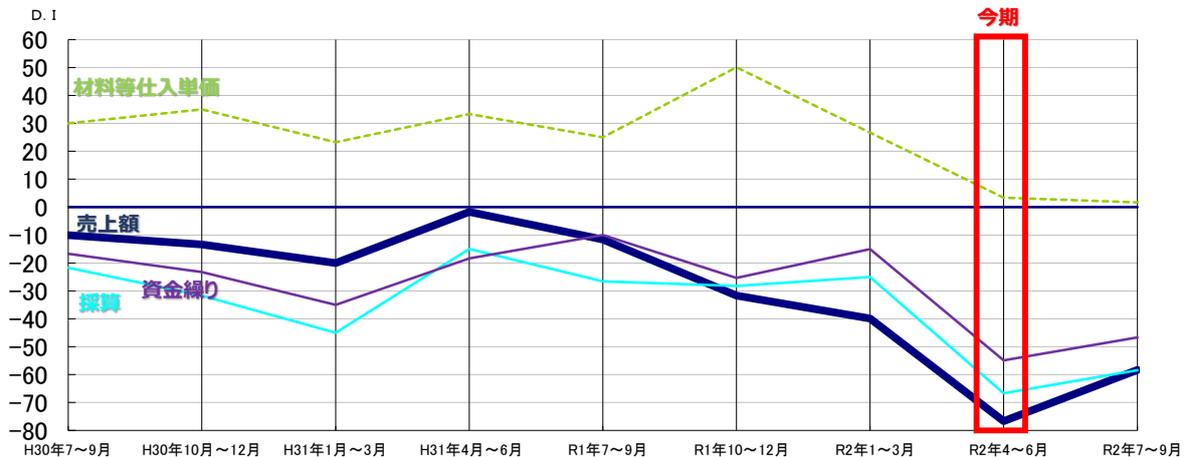
今期は、「売上額」が-37.5ポイント(-22.5→-60.0)、「採算」が-17.5ポイント(-35.0→-52.5)、「資金繰り」においては-27.5ポイント(-22.5→-50.0)と他業種同様、大幅な悪化となった。

来期においては、「資金繰り」が若干悪化(-2.5ポイント)するものの「売上額」と「採算」は、横ばいの見込みである。

「商品仕入単価」は12.5ポイント(25.0→12.5)改善され、来期においても改善が見込まれる。

サービス業

「売上額、採算、資金繰りが大幅悪化も、来期は改善の見込み」



「売上額」が-36.8ポイント(-39.9→-76.7)、「採算」が-41.7ポイント(-25.0→-66.7)、「資金繰り」が-39.9ポイント(-15.0→-54.9)と大幅な悪化となったものの、来期は「売上額」が18.4ポイント、「採算」が8.3ポイント、「資金繰り」が8.2ポイントの改善となる見込みである。

「材料等仕入単価」は23.3ポイント(26.7→3.4)と大幅な改善が見られ、来期についてもさらなる改善となる見込みである。

調査要領

○調査の目的

中小企業景況調査は、全国の商工会地区に地域経済観測点を設置し、地域の産業の状況や経済動向等について、一定時期ごとに変化の実態諸情報を迅速かつ的確に収集・提供して、経営改善普及事業の効果的実施に資するものとする。本報告書は、栃木県内商工会地区における、「製造業」「建設業」「小売業」「サービス業」の4業種を、主要景況項目(売上額・原材料仕入単価・採算・資金繰り)から分析し、景況情報をまとめたものである。

○調査対象地区（栃木県商工会地区）

栗野・にのみや・石橋・桑絹・大平町
岩舟町・塩谷町・高根沢町・那須烏山・足利市坂西

○調査時点

2020年6月1日

○調査対象期間

2020年4月～6月期の実績及び、2020年7月～9月期の見通しについて調査

○調査方法

商工会の経営指導員による訪問調査

○回答企業数内訳

業種	回答企業数	構成比(%)
製造業	30	20.0%
建設業	20	13.3%
小売業	40	26.7%
サービス業	60	40.0%
合計	150	100.0%

※D I 指数とは

報告書に登場するD I 値とは、デフュージョン・インデックス(Diffusion Index = 景気動向指数)の略であり、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合から減少(低下・悪化)企業割合を差し引いた値を示すものである。

D I 値がプラスのときは業況の好転、マイナスのときは業況の悪化を示すことから、景気の動向を判断する指数として利用される。また、D I 値は強気・弱気など、景況感の相対的な広がりを示すものであり、売上額などの実数値の上昇率とは異なる。

たとえば、今期の売上額を前年同期と比較した結果、増加企業が50%、不変企業が30%、減少企業が20%となったとすると、D I 値は $50 - 20 = 30$ となり、売上額に対して強気の度合いを示している。